

# 本学の学生の部活内暴力に関する意識調査

中澤 健 (生涯スポーツ学科 学校スポーツコース)  
指導教員 柴田 俊和

キーワード：部活内暴力，指導，生徒

## 1. 緒言

平成 25 年に文部科学省が行った児童生徒に対する体罰の実態を把握するための調査では、中学・高校における体罰の発生場面として一番多いのは部活動中であることが明らかとなっている。また、本学でも過去に部活内で先輩から後輩への暴力行為があったことは把握している。

なぜ体罰は起こるのか、その中でも部活動における生徒間での暴力に焦点を当て、部活内暴力が起こる原因や、各スポーツ種目ごとで部活内暴力の内容にどのような差があるのか、アンケート結果からその傾向等を分析する。そして、部活内暴力を(未然に)防ぐにはどうすべきか検討したいと思い、本研究を進めることを決めた。

## 2. 研究方法

本学の1年次生を対象に、選択記述式のアンケート調査を行った。過去に部活内暴力をしたことがあるのか、受けたことがあるのか、目撃したことがあるのか、という3つのカテゴリーと、部活内暴力をどのように思うのか、なぜ起こると思うのか、防ぐにはどうすればよいのかを記述してもらった。

## 3. 結果と考察

過去に部活内暴力を経験したことのある学生は14.6% (46人) おり、その男女比は44:2であった。

部活内暴力についてどう思うかという質問に対して、部活内暴力経験者は、暴力を受けたことにより競技成績が向上したという誤った認識から、部活内暴力を肯定する傾向であった。

部活内暴力はなぜ起こると思うのかという質問に対して、部活内暴力経験者は、「言うこ

とを聞かない部員に対する指導法の一つ」と回答した人が一番多かった。本学の学生のみならず、部活内暴力経験者の多くは、指導法として暴力が行われていた場に遭遇した可能性が高いと考える。

部活内暴力を防ぐにはという質問に対しては、回答で得られた内容を以下にまとめた。  
①部全体でミーティングの機会を多くとるようにし、意思の疎通を図る。  
②指導者は、部活内暴力が起こらないよう注意し、適材適所な人事と指導に努める。  
③一人一人が部活内暴力について理解を深め、なぜ暴力を行ってはいけないのかを知る。この三点を達成できるような部活動を目指す、部活内暴力を防ぐことが可能になると考える。

## 4. まとめ

本研究において、部活内暴力が起こる原因は、部活動内での人間関係の問題から暴力に発展したり、指導者や先輩から暴力による指導を受けた人が、それを次の世代に行うというものであった。

部活内暴力を防ぐ手立てとしては、問題が起こってからではなく、未然に防ぐことのできる環境を整えることが解決への一番の近道であると考えられる。

## 引用・参考文献

1. 阿江美恵子 (2000) 運動部指導者の暴力的行動の影響：社会的影響過程の視点から、体育学研究 45, pp. 90 - 102.
2. 来田宣幸・吉田浩之・原田隆史 (2014) 「教育活動としての部活動」を実現するための指導プログラムの開発 - 学習指導と生徒指導の観点から - , 笹川スポーツ研究助成, pp. 209 - 215.